



## 参議院が国内で主催する国際会議

参議院では、外国で開催される議員間の国際会議に代表団を派遣していますが、外国議員を日本に招き、国内で国際会議を主催することもあります。

古くは、昭和 35 年に列国議会同盟（I P U）会議を衆議院及び I P U と共催しました。I P U は議会の国連ともいふべき、世界最大規模の多国間（マルチ）の議会間組織です。初となる日本での I P U 会議は 9 月 29 日から 10 月 7 日に掛けて開催され、47 か国から計 329 名の議員が参加し、軍縮や議会制民主主義などに関する決議を採択しています。開会式では昭和天皇がお言葉を述べられたほか、内閣総理大臣も演説を行いました。当時は同会議を記念する切手やたばこなどが販売され、大きな賑わいとなったと記録されています。

最近では、平成 27 年に I P U の特別会議である世界若手議員会議を開催しました。これは世界の 45 歳未満の若手議員を対象とする会議で、世界各地における若者の政治参加を促進し、民主主義における今日的課題について討議の場を提供することを目的として開催され、若手議員等による活発な議論の後、成果文書を採択しています。

平成 28 年には、経済協力開発機構（O E C D）の政策を議員の視点から分析するとともに、議員に向けて O E C D の活動を周知することを目的とする O E C D グローバル議員ネットワーク会合を衆議院及び O E C D と共催しました。同会合では、O E C D 加盟国だけでなく A S E A N 加盟国議会の議員を広く招請し、O E C D とアジアとの架け橋になるという日本の役割を国会としても果たしました。

上記のような既存のマルチの会議以外にも、平成 9 年には、参議院 50 周年を記念して上院議長会議を開催しています。この会議では、直接選挙制が導入されている各国上院の議長を参議院に招請し、上院の果たすべき役割や平和などについて、上院議長同士の真摯かつ有意義な意見交換を行い、共同声明を採択しています。

また、こうしたマルチの会議だけではなく、二国又は地域間（バイ）の国際会議も主催し、より踏み込んだ議論を継続的に行っています。最も歴史が長いのは、欧州連合（E U）加盟各国から直接選挙で選ばれる議員によって構成される欧州議会と衆参両院の間で行われる日本・E U 議員会議です。昭和 53 年から原則 1 年に 1 回、日欧相互で開催されています。平成 28 年には 36 回目の会議が参議院議員会館において開催され、英国の E U 離脱や日 E U 経済連携協定などについて率直な意見交換が行われました。このほか、参議院と中国の立法府である全国人民代表大会の間で開催されている日中議員会議でも、双方の議員による活発な意見交換が行われ、政府間とは異なる外交チャンネルの一つとなっています。

近年国内で開催された国際会議の報告等は、参議院のホームページを通じて公表されています。こうした国際会議は、国外開催に比べて多くの参議院議員が参加して議論を主導できるだけでなく、日本の政治・経済・社会・文化などを幅広く外国議員にアピールできる良い機会であると言えるでしょう。

すずき けんた  
（鈴木 健太・国際部国際会議課）